製本のススメ　Vol. 9

気が付けば辺りはすっかり秋になっていますね。いつの間にかヒマワリはススキと入れ替わり、セミは鈴虫と選手交代です。まもなく街も紅葉の衣装がえです。

今回は上製本のお話

秋になると皆さん芸術に目覚めるせいか、上製本の依頼が増えてきます。
そこで幾つか上製本を企画・印刷する際の POINT を今回はお話いたしましょう。

まず**絶対条件なのは紙目です**。何回かこのススメでも書きましたが、紙目を間違うと致命的で、製本ではどうにもなりません（ココでいう紙目とは、あくまでも本に成った際の紙目であり、全判での紙目ではありません）

※特に見返し・扉・口絵は注意してください。**タテ目であることが原則**です。
本文も本に成ったときにタテ目であれば、開きが良く読みやすい本に成ります
またできる限りペラでの印刷は避けましょう。並製よりもガッシリした表紙になりますので、ノド側の強度が表紙に負けてしまう事があるからです。

さて本文の印刷は問題がありませんね。**（縦書きの内容なら右開きの本・横書きの内容なら左開きの本で、天袋・ケシタ袋が違います、覚えていますか？）**でも表紙を印刷するときには少し勝手が違います。まして背文字がある場合は位置を調整する必要があります（表紙の方が中身より大きい為）ぜひ相談してください。また、和紙系は見返しに不適ですし薄い紙は表紙に適しません（ｺﾋﾟｰ用紙も表紙にはなりません）上製本作りには紙と印刷と製本の基本がふんだんに盛り込まれていて、まさに教科書のようですね。

さて一口に上製本と言っても違いがあります。雑誌や資料等を壊して、必要な部分だけ集めて本にしたり　修理をしたりするのは**『図書館製本』**という分野で、一般的な上製本を量産するのとは、工程も設備も違いがあります。時々論文などを製本会社へ持ち込んだら「うちじゃやってないよ」と言われた人も多いはず。印刷に例えると活版とオフセットくらい違うのです。

何でも構わず営業して安易に発注しても、色々気付いて何とかしてくれる製本会社は**井関製本だけ！**と言っておきましょう♪

Teabreak

ある日二人連れの男が道を歩いていました。よく見るとその二人は手錠で繋がれています。私服刑事が犯人を連行しているのですが、さて右と左のどちらが犯人かわかりますか？答えは左側です。刑事は犯人が暴れた時などすぐに取り押さえられるように右手を自由にしておくためです。ただ、左利きの刑事だったら。。。。。こりゃ難問ですね

by（株）井関製本